

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立太秦中学校)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成28年	評価日	平成28年3月9日
						評価者・組織	運営委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	確かな学力	家庭学習の定着 学力の向上と意欲 基礎基本の定着	家庭学習用課題の作成と確認 言語活動を重視した授業の展開 ICTを活用した授業の 課外学習の充実 確認教材等の作成	子どもが家庭学習に取り組んでいるか(アンケート) 学習確認プログラム・全国学力テストの分析 子どもが授業の内容を理解している(アンケート)	⇒	第1回目と大きな変化は見られないが、学年・教科によって多少の違いが見られた。 学習に取り組む習慣も周囲の期待に十分こたえられていない現状が見られた。	研究授業や校内研修を発売に行い、アクティブラーニングの推進により、生徒の学習に対する主体性を育てていく。	⇒	学校だけの取組ではなく、家庭の理解と協力がなければどのような取組も十分な効果を得ることはできない。
2	豊かな心	礼節を重んじる態度 自他を思いやる心	部活動などの集団活動を通じての意識づけやあいさつ運動の実施 人権教育研修の実施、持ち回り道徳・全校道徳・研究発表などの実 行事を通じて、協力し助け合う気持ちを伸ばす	あいさつをすすんで行う(アンケート) 人権を大切にす気持 ちを持つ(アンケート) 行事等の振り返り	⇒	文化祭や合唱コンクール・体育大会などの行事を通じて、助け合い、思いやる心を育てることが見られた。	生徒の心を育てる学校行事の推進と、「しなやかな道徳」への取組を通じて深めた研修を継続していく必要がある。	⇒	道徳の授業を始めとした、中学校の取組は理解できる。保護者へ地域の参加をより一層促すことも必要である。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	規則正しい生活の呼びかけ 体育的行事の充実	睡眠時間は十分にとれているか(アンケート)、学習状況調査 朝食はとれているか(アンケート)、部活動に積極的に参加しているか	⇒	スマホやゲームに依存する生活習慣が睡眠不足や家庭学習時間の長さに影響を与えている。	規則正しい生活習慣を促すような取組を生徒会を中心として実践していく。	⇒	現代の子どもたちを取り巻く環境は複雑で、目には見えない問題について学校だけでなく保護者も地域も知る必要がある。
4	独自の取組	地域に開かれた学校 小中連携の取組 生徒会活動の活性化	学校行事への地域参加の呼びかけ ホームページによる発信 小中合同研修・新入生説明会・体験授業の実施・相互参観 他府県中学校との交流、生徒会3C活動 各行事における主体性促	教育活動への学校・家庭・地域の協力(アンケート) 小学校との交流機会の回数 生徒会を中心とした行事や活動の回数	⇒	学校行事への関心が高まっていることが行事への出席者の増加によってうかがわれるが、普段の授業参観などへの関心は十分ではないことが参加者から伺うことができる。	生徒会・学校・地域・保護者を巻き込んだ取組を推進することにより、学校への理解と関心を深めていく。	⇒	学校行事を通じて、学校・子どもに活気が出てきているのがわかる。 今後とも子どもに自信を持たせる取組を続けてほしいし、学校運営協議会も協力をしていく。

4 総括・次年度の課題

- ・確かな学力への取組として、今後さらに家庭学習の充実とわかる授業を実践するための研修などと取組を進めていく必要がある。
- ・心身ともに健やかな生徒を育てるために、生活習慣の実態調査と課題に対する手立てを検討していく必要がある。
- ・学校の取組への理解を地域へと広げていくために、家庭・地域を巻き込んだ取組をより一層進めるとともに、情報を発信していく必要がある。